

近世史料館春季展

「春の書画」

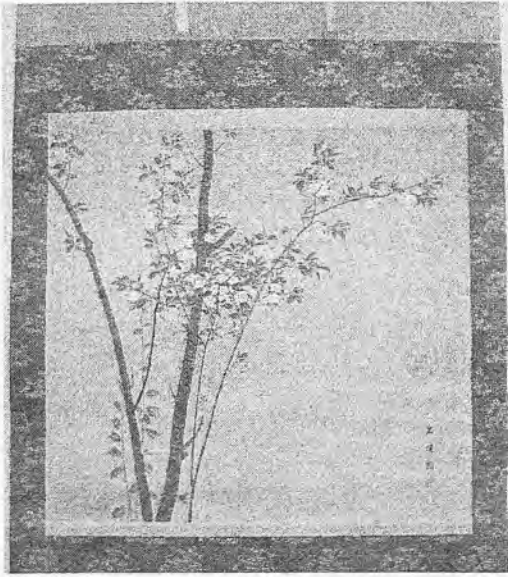
期間 平成18年1月24日～同年3月28日
場所 金沢市立玉川図書館近世史料館展示室



酒飯記 佐々木泉玄写 (24. 2-3)

酒飯論絵巻下絵の写しと思われる。

酒飯論絵巻は、酒好きの酒造正糟屋朝臣長持と飯好きの飯室津師好飯、そして酒も飯もほどほどに好む中左衛門大夫中原中成の3人による持論を展開するという内容の絵巻です。絵は四段からなり調理や配膳の様子が描かれていて、食文化の史料としても重要です。



*若桜 佐々木泉溪筆 24.2-10

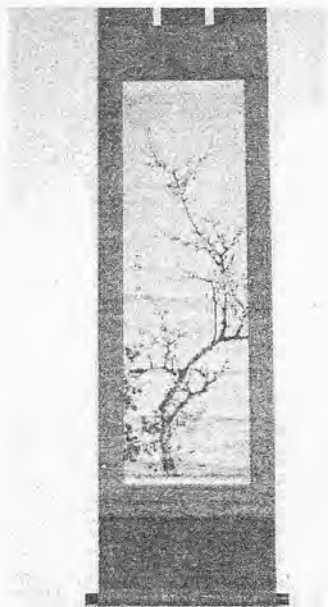
泉溪は、明治3年に生まれ、明治20年に狩野寿信に入門し、帝国絵画協会・日本画会会員として活躍しました。後に札幌高等女学校教諭として絵の指導を行い、昭和20年に亡くなりました。



*火(日)の出画 k7-234

大西金陽筆(安政2年～昭和10年)

生まれは奈良県であるが明治15年に金沢に来遊して、そのまま永住した。金沢画壇の長老として北陸絵画協会副会長など公私諸会の発展に尽くし、昭和10年に亡くなりました。



村山翠屋 文政元年～明治23年(1818～1890)

江戸時代末期から明治中頃にかけて活躍した南画家。本名を煥、字を君章、通称を文蔵、雅号は翠屋、別号として小隠・墨痴・半石・此君楼などがある。

文政元年に石川郡鶴来村に生まれ、金子鶴村について漢学を学ぶ。上京して山本梅逸に絵の技法を学び、病気になって帰郷した。

画題としては、師の梅逸が得意とした花鳥・山水画が多い。明治23年(1890)11月1日、72歳で亡くなりました。

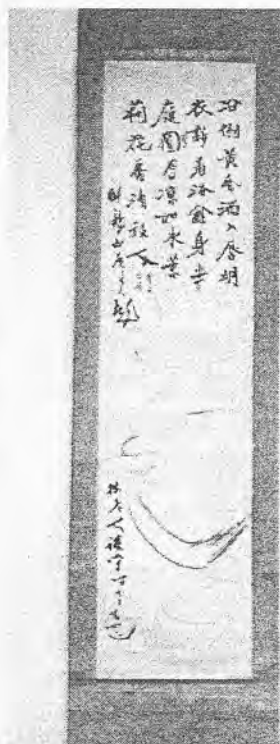


青山洪水 安永8年～嘉永元年（1779～1848）

加賀藩士。名は知次。通称与三、将監。碧鮮堂・清陰亭又は洪水と号した。

よく墨竹を描いた。嘉永元年2月28日、70歳で亡くなりました。

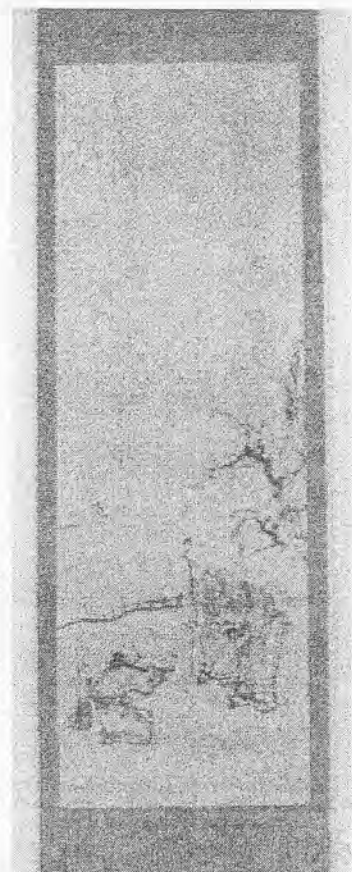
作品中「戊子秋日」とあるは、文政11年であり、洪水50歳のときの作品です。



小池梅処 天保2年～大正2年（1831～1913）

明治時代の画家。通称豊作、伯蔵、諱は常行または「行」。

大聖寺に生まれ、後に金沢に移った大正2年7月、83歳で亡くなりました。



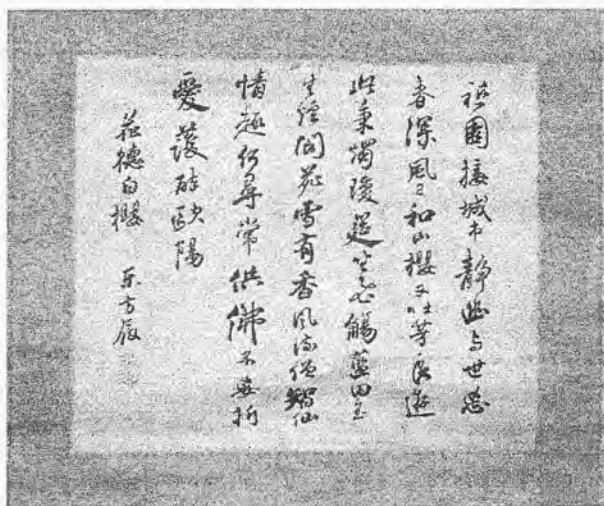
池野観了 宝暦3年～文政13年（1753～1830）

江戸時代中・後期に活躍した僧侶・南画家である。

幼名を左京、僧名・雅号を観了といった。ほかに蘭山・恩敬主人・東明・逍遙などの号がある。

宝暦3年4月5日、羽咋郡赤住村の恩敬寺第十世住職藤原覚円の子として生まれ、京都の高倉学寮に入寮して寮司の学位を授けられました。

南画家の池大雅の門に入り「能登の大雅堂」といわれ、文政13年3月29日、78歳で亡くなりました。



東方芝山 文化10年～明治12年(1813～1879)

江戸時代末期から明治時代前半にかけて活躍した大聖寺藩士で儒学者、または南画家。諱は履、字は天澤、通称を元吉、真平。雅号を芝山、雙獄、芝湖、五揚などという。書家・南画家の貫名海屋(1778～1863)に書を習ったが、絵においても影響を受ける。また海屋の門人池内陶所(1814～1863)に詩文を学びました。

明治12年(1879)1月22日、67歳で亡くなりました。



はらばらと

薔薇こほるる月夜哉

徳田 秋声



海松ふさの颯と大なりて波かしら

泉 鏡花



なきなきて忙しき虫や短かかる
一世の秋をいのちなりけり

尾山 篤二郎



* 天狗草紙
尊敬閣叢書
(模本)